

## 14事業の再評価結果 (1/2)

事業名	実施箇所	延長(km)	全体事業費(億円) <事業費の見直し後>	事業費の見直し内容	
				縮減額(億円)	
一般国道230号 国縫道路	北海道	14.9	46	2	・法面植生において現場発生材を利用した工法の採用 ・擁壁形式の変更(逆T擁壁→補強土壁) ・橋梁構造の変更(橋梁構造→函渠構造)
一般国道232号 天塩バイパス	北海道	8.0	51	2	・縦断勾配の見直しによる、現道へのすり付け延長の削減(0.2kmの短縮)
一般国道278号 鹿部道路	北海道	7.7	59	7	・縦断勾配の見直しによる、土工量の削減
一般国道17号 綾戸バイパス	群馬県	2.3	156	8	・トンネルの断面積の縮小 ・道路幅員の縮小(車道3.5m→3.25m) ・橋梁上部工構造の見直し(加速車線の省略)
一般国道17号 浦佐バイパス	新潟県	6.6	210	11	・本線部歩道を側道と兼用させることによる盛土量の減少 ・橋梁部の両側歩道を片側歩道に変更
一般国道113号 鷹ノ巣道路	新潟県	5.0	153	17	・トンネル断面積の縮小 ・道路幅員の縮小(中央分離帯1.5m→0.5m) ・インターチェンジ構造の縮減
一般国道148号 小谷道路	長野県	4.6	224	1	・車両用防護柵の変更 ・盛土材を安価な材料に変更 ・法面処理、足場工の工法変更
一般国道54号 三刀屋拡幅	島根県	4.1	144	12	・一部区間の4車線から2車線への車線数の変更 ・橋梁の仮設工法の見直し
一般国道185号 安芸津バイパス	広島県	6.1	185	85	・4車線から2車線への車線数の変更 ・トンネル断面積の縮小
一般国道440号 地芳道路	愛媛県 高知県	8.9	464	2	・トンネルの電気設備の規模の縮小 ・トンネル内の舗装工法の見直し
高知東部自動車道 一般国道55号 高知南国道路	高知県	15.0	1,288	12	・インターチェンジの構造の見直し
一般国道329号 与那原バイパス	沖縄県	4.2	470	110	・立体交差から平面交差への構造の変更 ・跨道橋整備の取りやめ
一般国道329号 南風原バイパス	沖縄県	2.8	450	150	・立体交差から平面交差への構造の変更 ・橋梁構造の見直し
一般国道331号 中山改良	沖縄県	1.8	82	3	・トンネル断面積の縮小 ・歩道整備の取りやめ ・事業延長の見直し(0.3kmの短縮)

14事業の再評価結果 (2 / 2)

事業名	実施箇所	3便益のB/C <事業費の見直し後>		その他の主な効果・役割 (マニュアルに規定のある効果) 【 】は、便益の試算値[参考]	その他の主な効果・役割 (その他の効果) 【 】は、便益の試算値[参考]	再評価結果
		事業全体	残事業			
一般国道230号 国縫道路	北海道	1.0	4.7	-	・救急医療アクセス【約0.1億円】 ・農林水産品の流通利便性向上 ・走行環境の向上(曲線半径規定値外の解消:12箇所) ・代替路としての機能強化(国道5号通行止め実績:7回/10年)	見直し継続
一般国道232号 天塩バイパス	北海道	1.0	2.8	-	・救急医療アクセス【約2.5億円】 ・農林水産品の流通利便性向上 ・冬期視程障害解消による走行性向上【約1億円】 ・日常活動圏中心都市へのアクセス向上	見直し継続
一般国道278号 鹿部道路	北海道	1.1	1.5	-	・救急医療アクセス【約3.4億円】 ・火山噴火時の緊急避難路(94分短縮) ・火山噴火時の交通機能の早期回復効果【約1.1億円】 ・安全な通学路の確保(鹿部町児童数:524人(H19))	見直し継続
一般国道17号 綾戸バイパス	群馬県	1.0	1.1	・災害等による通行止めの考慮【約0.4億円】 ・休日の考慮【約1.7億円】 全体B/C:1.1 残事業B/C:1.2	・線形不良区間の解消による重大事故の低減 ・落石等による災害の回避	見直し継続
一般国道17号 浦佐バイパス	新潟県	1.0	2.1	・冬期の交通状況の考慮【約7億円】 全体B/C:1.0 残事業B/C:2.2	・冬期の運搬排雪による通行規制の回避(運搬排雪時間:113時間/年) ・現道区間の洪水時の冠水や、濃霧の影響を回避 ・夜間騒音の改善 ・救急医療アクセス(時間短縮の受益人口:約6,600人)【約15億円】	見直し継続
一般国道113号 鷹ノ巣道路	新潟県	0.7	0.9	・休日の考慮【約2億円】 ・冬期の交通状況の考慮【約3億円】 ・災害等による通行止めの考慮【約4~12億円】 全体B/C:0.7~0.8 残事業B/C:1.0~1.1	・広域的な観光ルートを形成(年間入込客数:約1,200万人) ・県境を越え、新潟県で6人が出産、5人が人工透析で通院 ・救急医療アクセス(5集落、352人)【約0.2億円】 ・広域的な物流ルートを形成(約13,000トン/日) ・孤立時の鷹ノ巣温泉の経営や地域経済活動への影響【約1~3億円】	見直し継続
一般国道148号 小谷道路	長野県	0.8	1.2	・冬期の交通状況の考慮【約12億円】 ・休日の考慮【約4億円】 全体B/C:0.9 残事業B/C:1.2	・冬期の登坂不能車による通行止め回避(年平均7回(26時間/年))【約4億円】 ・海水浴場やスキー場への観光・交流支援(部分供用により休日のバスが58台増) ・救急医療アクセス(359人)【約0.5億円】 ・富山・石川県から関東方面への物流は約6割が国道148号を利用	見直し継続
一般国道54号 三刀屋拡幅	島根県	1.0	1.9	・災害等による通行止めの考慮【約0.7億円】 全体B/C:1.0 残事業B/C:1.9	・救急医療アクセス(時間短縮約1分、約35人/年が便益享受)【約11億円】 ・環境への影響を考慮した効果(約1300t/年のCO2削減)【約0.7億円】 ・雲南市の魅力あるまちづくりを支援(宅地化等による人口増加(対H10:1.6倍)) ・歩行空間の確保(歩行者70人/日・自転車140台/日)	見直し継続
一般国道185号 安芸津バイパス	広島県	1.0	1.3	・災害等による通行止めの考慮【約0.04億円】 全体B/C:1.0 残事業B/C:1.3	・救急医療アクセス(時間短縮約1分、約4人/年が便益享受)【約0.5億円】 ・環境への影響を考慮した効果(約800t/年のCO2削減)【約0.4億円】 ・隘路区間や線形不良区間が解消(平面線形3箇所、縦断線形4箇所) ・国際標準コンテナ車通行不能区間が解消(例:呉港~竹原市約30分短縮) ・通学路などの歩行空間の安全性向上(歩道なし区間:歩行者40人/日、自転車100台/日)	見直し継続
一般国道440号 地芳道路	愛媛県 高知県	0.5	5.7	・災害等による通行止めの考慮【約11~144億円】 全体B/C:0.5~0.8 残事業B/C:5.9~8.6	・県境を跨ぐ医療施設への所要時間短縮(48分 22分) ・線形不良解消等による輸送効率向上により農林水産業を支援 ・四国カルストへのアクセス向上で観光客増	見直し継続
高知東部自動車道 一般国道55号 高知南国道路	高知県	0.9	2.7	-	・安芸市が第3次医療施設60分圏域に入る(約2万人拡大) ・救急医療アクセス【約210/450億円】 ・緊急輸送ネットワークを補強 ・漁港、流通センターへのアクセス向上により、漁業、農業を支援	見直し継続
一般国道329号 与那原バイパス	沖縄県	1.1	2.0	-	・救急医療アクセス(50年間で約50名の救命効果[試算値])【約33億円】 ・CO2排出量削減(64,515t-c/50年)【約2.1億円】 ・住民生活の利便性の向上(大型商業施設、企業の進出)	見直し継続
一般国道329号 南風原バイパス	沖縄県	1.0	1.2	-	・救急医療アクセス(50年間で約30名の救命効果[試算値])【約19.4億円】 ・CO2排出量削減(60,457t-c/50年)【約1.9億円】 ・住民生活の利便性の向上(大型商業施設の進出)	見直し継続
一般国道331号 中山改良	沖縄県	0.7	2.9	・災害等による通行止めの考慮【約19.4億円】 ・休日交通の考慮【約5.1億円】 全体B/C:0.9 残事業B/C:4.0	・大型車のすれ違い困難区間の解消【約3.5億円】 ・観光消費額や転入者の増加等による活性化(観光客の増加:270万人 300万人)【約7.7億円】	見直し継続

3便益に の便益の試算値を加え、費用で除した場合のB/Cの値